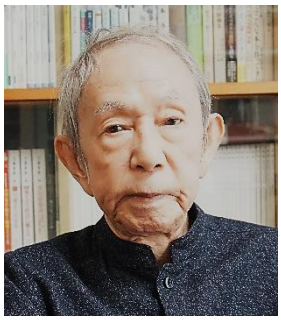

【写真は本人提供】

渡辺（わたなべ）　京二（きょうじ）（文化）

昭和５年（１９３０年）８月１日　生
（満９１歳）

渡辺氏は、京都府で生まれる。少年期の７年間を北京・大連で過ごし、昭和２２年（１９４７年）帰国後、父母の出身地である熊本へ移住した。第五高等学校に入学するが病気療養のため休学、その後、法政大学社会学部へ入学した。法政大学卒業後、「日本読書新聞」記者となり、昭和４０年（１９６５年）には帰熊、その後は福岡市の予備校・河合塾講師、熊本短期大学講師、熊本大学大学院社会文化科学研究科客員教授を歴任した。

氏は、日本の近世及び近代の著述家・日本思想史家として国内外の膨大な資料を渉猟・精査し、外国人や庶民から見た近世・近代の日本について、独自の新たな歴史観を切り開いたことで全国に知られる。その成果は、これまでに単行本約５０冊として刊行。主要な著作は『北一輝』（１９７８年）毎日出版文化賞、『逝きし世の面影』（１９９８年）熊日出版文化賞、和辻哲郎文化賞、『黒船前夜　ロシア・アイヌ・日本の三国志』（２０１０年）大佛次郎賞、『バテレンの世紀』（２０１８年）読売文学賞を受賞している。また、平成２２年（２０１０年）に熊日賞を受賞している。現在も熊本日日新聞で「小さきものの近代」を連載中である。

他方、若い頃から、「熊本風土記」「炎の眼」「暗河」など文芸雑誌を創刊し、評論等を発表、編集者としても活躍した。熊本の地で文学者仲間と切磋琢磨し、その輪を広げ、新しい才能の発掘、作品発表の場を作り続けてきた。その作品群は全国へ向けて発信され、熊本の文学界の一角を牽引することにつながった。特に石牟礼道子氏とは半世紀にわたり編集者として深く関わり、「海と空のあいだに」（のち『苦海浄土』と改題）など石牟礼氏の多くの作品を世に出した。

そのほか、膨大な読書の蓄積から選りすぐりの作品を選んで分かりやすく紹介した『私の世界文学案内』、『日本詩歌思出草』など、読書案内の刊行も多く、幅広い層から支持され読まれ続けている。

昭和３７年　法政大学卒業後、「日本読書新聞」記者となる（昭和３９年退職）
昭和４０年　帰熊、書店「新聞の家」に勤務
昭和４２年　学習塾を開く
昭和５６年　福岡市の予備校・河合塾の講師着任（平成１８年まで）
昭和５７年　熊本短期大学で「日本文化論・西洋文化論」の講座開講
平成２２年　熊本大学大学院社会文化科学研究科客員教授（平成２３年まで）